

授業のユニバーサルデザイン化の研究 ～伝え方の工夫～

小田原市立千代中学校

1 事業の目的

本校は教育目標を「自ら学び、主体的に判断し、行動できる生徒の育成」とし、これからの時代をたくましく生き抜き、未来を拓く力を育てることをめざし、教育活動に取り組んでいる。昨年度より、ユニバーサルデザインの視点と合理的配慮について重点をおき研究を進め、ユニバーサルデザイン化を図るための千代中スタンダードを生徒ともに作る素地ができた。

今年度も研究を継続し、昨年度の成果を生かしつつ新たな視点を取り入れながら研究を進めたいと考えている。学校評議員やスクールボランティア、PTA、地域の方々などと連携を図りながら、ユニバーサルデザイン化のヒントを見いだし、授業づくりに生かしていきたい。様々な視点から千代中スタンダードを確立し、生徒の学習意欲の向上や考え方の多様性が生まれることをめざし、学校教育目標の具現化を図りたい。

2 事業の内容

(1) 授業のユニバーサルデザイン化にさまざまな面からせまり教育活動を行う

☆「説明（授業の流れ）」「板書」「教材」の3グループに分け、授業のユニバーサルデザイン化を考えていく。（校内研究と連携）

- ・3年間で3つの視点からユニバーサルデザイン化を図る。
- ・互いに授業参観を行い、意見交換をするとともに、講師の方に指導助言をいただきながら改善を図る。

(2) 地域の良さを生かした「ふれあい授業」を実践する

☆保護者や地域の方とともに学ぶ「ふれあい授業」を各教科・領域等で実践する。

- ・各地区まちづくり検討委員会が作成した地域別計画を学習教材に取り入れる。
- ・地域の担い手としての自分の生き方を考える、発信する学習を実践する。

(3) 地域との協働をめざした学校評議員会のあり方を研究する

☆学校評議員会の運営を改善し、学校づくりへの参画意識を高める。

- ・ワークショップ型会議を行い、学校評議員会の協議を活性化するとともに、出された意見を授業づくりに反映する。

3 事業の成果

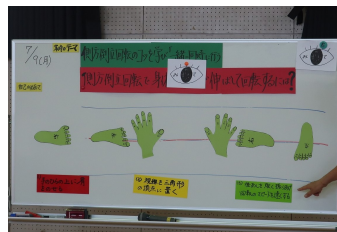
(1) 授業のユニバーサルデザイン化について

「説明グループ」では、少ない言葉で具体的に指示することを心がけ、身近な話題を取り入れながら学習ポイントが明確になるような伝え方の工夫を図った。導入をルーティーン化している教科もあり、生徒が安心感をもって授業に臨んでいる。

「板書グループ」では、1時間黒板1枚分を基本として、ワークシートと板書をリンクさせて生徒が集中できる環境づくりに努めた。

ひと目で授業の流れやポイントがわかり、振り返りやすくなった。

「教材グループ」では、使用する道具の拡大模型による実演や視聴覚機器の積極的な活用を通し、生徒の興味を引きつけながらイメージ化を図った。生徒の取組もスムーズに行え、教え合う姿も増えた。



(2) 地域の良さを生かした「ふれあい授業」について

3年生では、家庭科の保育実習を上府中保育園で実施している。6月に保育体験し、11月に自作の絵本の読み聞かせを行った。年齢による対応の違いや留意点について、保育士の方々からわかりやすい説明を受け、生徒の質問にも丁寧に対応していただくことにより、生徒たちも自信を持って実習に臨んでいた。子どもたちとのふれあいを通して、保育の楽しさや大変さを学ぶことができたとともに、生命の大切さや個々を尊重する心を育むことができた。



2年生では、進路学習の一環として、11月に職業体験を実施している。小田原市内の商店や事業所、小学校などを訪問し、仕事を体験するとともに働くことの意義を学んだ。各事業所の方々から、仕事内容の説明だけでなく、社会人としての心構えやお客様のことを考えた言動についてもお話しいただき、学校では学ぶことのできない貴重な学習の機会となった。



1年生では、上府中地区まちづくり委員会にご協力いただき、農業体験（米作り）を行っている。6月の田植えや10月の収穫の際には、委員の方々のご指導のもとで作業を進めることができた。小学生時代に体験をしているが、忘れていたことも多く、改めて米作りの大変さやありがたさを確認することができた。

(3) 地域との協働をめざした学校評議員会のあり方について

本校では、年3回学校評議員連絡会を開催し、学校運営に係る情報交換や授業参観等による学校の現状を理解していただいている。すべての評議員の方の意見や考えを共有するため、学校と地域の連携について付箋紙を利用して一覧表にまとめた。様々な角度から学校や地域の強みや弱みが見え、学校運営の改善の方向性が明確となった。また、連絡会で作成した一覧表を職員室に掲示し、教職員と情報を共有することにより、よりよい授業づくりの一助となった。

学校と地域の連携について		学校	地域
強みの 弱い点	強み	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動が盛ん 地域の施設が充実 地域の企業との連携が深い 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業との連携が深い 地域の施設が充実 地域のボランティア活動が盛ん
	弱い点	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動が盛ん 地域の施設が充実 地域の企業との連携が深い 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業との連携が深い 地域の施設が充実 地域のボランティア活動が盛ん

4 事業のまとめ・次年度に向けて

子どもたちの学ぶ意欲の向上と多様な考え方を育むために、昨年度から3つのグループがそれぞれ1年目の成果と課題を踏まえながら取り組んできた。授業のユニバーサルデザイン化を図るための千代中スタンダードが徐々にではあるが作られてきている。次年度も各グループのメンバーを入れ替え、2年間の成果を生かしながら新たな視点を取り入れ、授業のユニバーサルデザイン化を確立していくこととなり、研究をまとめていく。

次年度は、3年計画の最終年度になり、ほとんどの教職員が3つのグループを経験することとなる。3つの視点を総合的にとらえ、自身の授業をどのようにユニバーサルデザイン化していくかが課題となる。生徒が自ら学び、主体的に判断し、学びの成果を発信していけるような支援を続けるためには、学校・保護者・地域との連携は不可欠である。教職員以外の方々の視点を取り入れ、横断的な学びの中からユニバーサルデザインのあり方を模索し追究することが今後の課題である。

